

本会議の代表質疑から

本定例会では、条例・その他の議案、予算、施政方針について各会派の代表質疑を行いました。代表質疑及び個人質疑は一括して各会派の持ち時間内で行い、大会派順に発言をします。持ち時間は各会派の人数等によって決まり、各会派の持ち時間及び発言順序は以下のとおりです。

まちだ市民クラブ	70分
公明党	55分
自由民主党	50分
選ばれる町田をつくる会	50分
日本共産党	45分
無所属	40分



公明党 おんじょう由久

問 町田市が第二子、第三子も「産み育てたいまち」として選ばれるための取組は。

市長 まちだ若者大作戦の実施や子どもクラブのさらなる整備、高校生等を対象とした医療費助成の実施などにより、支援を広げてまいります。

問 高齢化の進展に対して地域ぐるみで支え合える体制強化はどのように。

榎本副市長 多世代交流の場の活用や企業連携などで、気軽に支え合い活動に参加できる取組を進めていきます。

問 中心市街地活性化に重要な規制緩和等のインセンティブや交通網をどのように。

赤塚副市長 駅周辺は、容積率の緩和などを導入し、都市基盤を整備してまいります。

自由民主党 佐藤伸一郎

問 「ゼロカーボンシティまちだ」について、どのような姿勢で温室効果ガスの排出削減に取り組んでいるのか。

榎本副市長 まちだ未来づくりビジョン2040では、みんなで将来に受け継ぐ持続可能な環境をつくることを掲げ、温暖化対策を推進しているところです。市民、事業者などの理解や取組が必要で、連携、協働することで、50年度までに温室効果ガス排出実質ゼロを目指してまいります。

問 芦ヶ谷公園、芸術の杜、パークミュージアムがオープンすると、来園者はどんな公園の過ごし方ができるのか。今後の整備によりどのよ

うに公園が変わっていくのか。
赤塚副市長 多様な文化芸術活動や豊かな自然を感じながら学ぶことができる体験型の公園を目指しています。
問 「町田市性の多様性の尊重に関する条例」においてパートナースhip宣誓制度の導入の意義は。
榎本副市長 性的マイノリティーの方々の困り事や生きづらさを軽減することに加え、差別偏見の解消など、当事者に寄り添い安心して暮らせる環境につなげていくことです。
問 「地域かがやき作戦本部」を立ち上げた市長の思いは。また、今後の展開は。
榎本副市長 地域が一層輝いていく取組を後押ししたいという思いを込めて立ち上げました。相談の機会を今後さらに拡充し、一層輝く地域を皆様と共につくってまいります。

選ばれる町田をつくる会 木目田英男

問 中学校給食センターの整備イメージと今後の整備スケジュールは。

榎本副市長 生徒数減少を見込み、必要十分でコンパクトな施設とします。その上で丁寧な手作りにすることや多様な献立に加え、アレルギーに対応した専用食も調理、配送できる体制を整えていきます。さらに、防災協定の締結や地域の防災イベントを行うなど、災害対応力の高い施設としていきます。今後の整備は、25年度までに全員給食を開始できるように注力してまいります。

問 鶴川駅周辺の再整備によって、駅周辺はどのように生まれ変わるのか。
赤塚副市長 駅舎を橋上化させ、南北をつなぐ自由通路

に直結させることにより町の交流拠点にしていきます。また、交通広場や周辺道路などを整備し、駅利用者の利便性や安全性を高め、周辺からのアクセス向上を図ります。さらに新たな商業機能を南北に設け、既存の商店街などへの歩行者ネットワークを整えていきます。活気にぎわいのあふれたエリアに生まれ変わるよう整備を進めてまいります。

無所属 松岡みゆき

問 災害対策で、屋外用テントを活用し、アウトドアと防災を融合した宿泊体験型の訓練を行うが具体的な計画は。
榎本副市長 23年度は市民の皆様が避難用テントを使用し、キャンプをしながら宿泊するイベントを開催します。

問 保健所機能維持に向けた組織的な応援体制の内容は。
榎本副市長 対策本部会議を開催するなど、流行状況や保健所の業務状況を市全体で情報共有し、状況に応じて職員や市民の協力を呼びかけ、体制を構築しました。

問 学校の統廃合で、避難施設が工事中に使えない事や、廃止される事も予測され、地元住民の不安がある。対応は。
防災安全部長 現在学校が

担っている避難施設機能は、基本的には、その地域における統合新設校や周辺の施設等に引き継ぐことを考えていますが、引き継ぐことが難しい場合、学校跡地を含めて、その地域にとって最適な配置となるよう検討してまいります。また、学校統廃合に伴う工事期間中の避難先には、近隣の避難施設に分散して避難をさせていただくこととなります。

日本共産党 細野龍子

問 光熱費や生活必需品の高騰に苦しむ市民や業者への支援をどのように行うのか。
榎本副市長 市民支援は生活支援や救済措置の制度の中で対応していく考えです。事業者支援は融資制度など既存の仕組みを活用してまいります。

問 「まちだの新たな学校づくり」の学校統廃合計画は、通学区域を広域化し、学校規模を拡大する。行き届いた教育や安心安全な生活を保障できないと考えるが、どうか。
榎本副市長 新たな教育環境整備、教員が教育活動に専念できる環境づくりを進める取組です。通学路の安全対策などに取り組み、安心して通学できるようにしていきます。


問 芦ヶ谷公園、芸術の杜、パークミュージアム構想は、市民の理解や合意が得られていないが、整備費や管理運営費はいくらかかるのか。
赤塚副市長 令和5年度予算にて、(仮称)国際工芸美術館整備に約33億3000万円、(仮称)公園案内棟・喫茶/版画工房/アート体験棟の擁壁整備に1億2000万円を計上し、(仮称)芦ヶ谷公園、芸術の杜、パークミュージアム整備運営事業委託料約103億4000万円を23年度から38年度の債務負担行為事業として計上しています。

問 図書館など、公共施設再編は、市民や地域との十分な合意形成が図られ、声を活かした計画になっているか。
榎本副市長 それぞれの地域で意見交換を重ね検討してきました。引き続き話し合いを重ね、再編を進めてまいります。

市議会ホームページをご覧ください。
<https://www.gikai-machida.jp/>

町田市議会のホームページを開設しています。会議録の検索、議会の会期日程や議案の審議結果等の最新情報、議員の紹介、過去の市議会だよりなどを掲載しています。

また、本会議、常任委員会や特別委員会のライブ中継、録画配信もインターネットで行っています。スマートフォンやタブレット端末でもご覧いただけます。



本会議の代表質疑の様子をインターネットで配信しています。
<https://www.gikai-machida.jp/>